

5 Expanding research across disciplines

研究を学際的に展開したい

第18回

「議論の十字路、百万遍」

百万遍談議

かつて百万遍周辺の喫茶店では、「読書会」と称して、違う分野の学生が集まってひとつのテーマで議論をする姿がしばしば見られました。コーヒー1杯で数時間いても店の人は気にもせず、ひたすらコップにお水をついでくれたものです。
あるいは「下宿」に集まってなされた議論は、同じ下宿の他学部の人だけでなく、他大学の学生も加わって、それこそ朝まで延々と続けられたというのが茶飯事でした。

最近ではコロナの影響もあり、学生同士の議論というものが影をひそめているように思います。加えてそもそも喫茶店自体がどんどん少なくなっています。
そこで、往時に盛んであったそんな議論の場を、「百万遍談議」として復活させようという思いから、このような企画が作られました。参加資格は、京都大学の学部学生であれば、学部や学年は問いません。

授業ではありませんので、なにかこうしなければいけないという義務はなく、単に興味があるから参加して、人の話をきき、自分の考えを述べる。それだけです。
毎回のテーマに関して、なにか知識が必要ということはありません。唯一お願いするのは、毎回提示される文章をともかく読んでくこと、それだけです。
また、「議論」はしますが、なにか結論を導こうとして話をするわけではありません。テキストを読んで思ったことを自由に話してもらえばいいわけで、もちろんその場で誰かの発言をきいて思いついたことを話しても結構です。

「人はこんなことを考えているんだ」ということを知るだけでも楽しいですし、さらには、自分の考えを人にきいてもらうことの楽しさも、大学生に与えられたある種の特権です。
気軽な気持ちで参加してください。
いろいろな人と人、人と言葉あるいは考えの出会いが生まれることを楽しみにしています。

開催日時 2024年6月22日[土]15:00-17:00

話題提供者 沼田 英治 (学術研究展開センター 特定教授)

テーマ 「生物の時間と人間の生活 その2」

会場 清風荘 (京都市左京区田中関田町2-1) ※重要文化財 / 30分見学ツアー付

今回は上記のテーマについて、ともに考えてみたいと思います。
テキストは下記QRコードの申込フォームに記載のリンクからダウンロードして読んでください。

対象：京都大学学部学生(正規生)先着10名 費用：無料 使用言語：日本語

申込方法：下記URLもしくは右記QRコードよりお申し込みください
<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/event/20240622/>



これまでの開催記録はこちら
<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/support/gakusai/dangi/>



主催・お問い合わせ 京都大学学術研究展開センター (KURA) 「百万遍談議」担当 | jinsha@kura.kyoto-u.ac.jp



2024年6月22日
百万遍談議 開催報告

第18回 生物の時間と人間の生活 その2

話題提供者

沼田 英治 学術研究展開センター 特定教授

参加者：7名

[内訳]

1回生2名（農学）

2回生1名（文学）

3回生1名（文学）

4回生3名（医学・農学・総合人間学）

談議メモ

今回は特別に、本学所有の重要文化財である清風荘にて開催しました。

テーマは第16回に引き続き「生物の時間と人間の生活」とし、話題提供者の沼田 英治 特定教授（動物生理学・行動学）が、オジギソウという植物が周期的に葉の上下運動を繰り返すことを発見した、18世紀のフランスの科学者の論文を紹介しました。

最初は人や生物がもつ「体内時計」の仕組みに関する質問が相次ぎ、それに対して沼田 特定教授が答えていく形で話し合いが始まり、次第に「人間の時間の考え方が、生物へのまなざしに影響しているのではないか」、「生物が体内時計を持っていることはどのようにして分かるのか、どのような実験をするのか」といった話から生物実験のあり方、生命倫理への問題へと話が進みました。

また、「時間」に注目して「一日」「一週間」「一か月」「一年」といった人間の時間の区切り方がいつ生まれたのか、人間が生物を観察する時に、そのような「人間の時間」がどのような影響を及ぼすのかについても議論が交わされた他、話題となった論文が18世紀のフランス人科学者によるものだったことから、当時の自然科学のあり方や論文の書き方など、様々な話題へと話が広がりました。